

◆二十九番 (今井光子) (登壇) 日本共産党の今井光子です。国政選挙ただ中の県議会になりました。日本共産党は、六十年間続いたアメリカ、財界言いなりの自民党型の政治をやめさせ、暮らしを脅かす消費税増税はストップ、原発即時ゼロ、TPPに反対し、憲法九条を守り抜きます。戦前から九十年間、反戦平和を貫き、企業・団体献金も政党助成金も受け取らず、国民を裏切ることなく、草の根で国民とともに命、暮らし、平和を守り続けてまいりました。総選挙では提案し、行動する党として戦う決意を申し上げ、代表質問をいたします。

平和について、知事にお伺いいたします。

上牧町議会では、治安維持法の国家賠償責任を求める意見書が決議されました。治安維持法は、日本共産党や自由主義者を弾圧することで、戦争反対はアカだと決めつけて、国民の自由と民主主義を奪い、国民を戦争に総動員していきました。治安維持法によって七万人が逮捕され、七千人が投獄され、日本共産党員作家の小林多喜二など獄中で拷問や病気で亡くなった方は千六百九十七人です。戦後、治安維持法は間違いだったとして、すべての人が釈放されました。国は、その責任を今もあいまいにしたままです。

あす十二月八日は、太平洋戦争が始まった日です。国政選挙で自由民主党は、集団的自衛権の行使を可能にすると、自衛隊を国防軍に変えるために憲法九条の改正を公約しています。民主党政権のもとで武器三原則が緩和され、国際共同開発、共同生産の道を開き、原子力基本法には安全保障に資するを入れ、軍事利用が可能であるかの道を開きました。石原日本維新の会代表は、核武装や徴兵制まで言い出しています。未来の候補者も国軍と言い出しています。

先日、九十二歳で亡くなられた女優の森光子さんは、戦争を知る人は、幸せの根源は平和だともっと大きな声で言うべきではないかといつも思っていますと言われました。その幸せの根源である平和が、今、脅かされつつあります。二度と同じ誤りを繰り返してはなりません。今こそ平和のとうとさを訴えていく必要があるのではないのでしょうか。

奈良県は、国際文化観光・平和県として世界に平和を発信するにふさわしいところであると思います。そこで、国際文化観光・平和県として、改めて平和の取り組みと、平和を守る知事の決意についてお尋ねをいたします。

◎知事（荒井正吾）（登壇）二十九番今井議員のご質問にお答えいたします。第一問は、平和についての取り組みのご質問でございました。

冒頭、治安維持法の成立する時代のことをおっしゃいましたが、当時は普通選挙法を初めて導入される時期でもございましたし、満州事変が起こった時期でもございましたし、政党政治が終わってしまった時期でもございました。今の世相と、とりわけポピュリズムの時代であったかという本も出ていることですが、いずれの時代であっても、平和の取り組みというのは大事かと思えます。国家間の平和の取り組みももちろん重要ですが、国を超えた地方政府同士の交流、さらには議員同士の交流、民間交流も平和の醸成につながる活動であろうかと思っております。本県におけるそのような取り組みを多少ご紹介、ご説明申し上げたいと思えます。

本県では、昭和六十三年に「国際文化観光・平和県」を宣言いたしまして、本県の有する歴史文化遺産などの特性を活用して、奈良県と歴史的にゆかりの深い中国や韓国などの東アジアの国々を中心に交流を推進してきた経緯がございます。近時に至りまして、そのような活動が加速されているわけですが、昨年度は、九月に中国陝西省と、さらには十月には韓国忠清南道と、それぞれ友好提携協定書を締結いたしました。また、マルチの地方政府の交流の場として、東アジア地方政府会合の開催にも継続して取り組んでおります。

今後とも、歴史的につながりの深い地域と、地域特性を生かした交流を具体的に継続して実施して、地方レベルの交流を深め、永続的な平和を希求する機運の醸成に努めていきたいと思っております。

また、今月十八日には県の新公会堂で授賞式を行います。平城遷都一三〇〇年記念アジア・コスモポリタン賞というのを行います。この賞は、千三百年前の奈良がアジア各地の文化や経済、情報が人とともに行き交うコスモポリタン都市であったという認識のもとに、奈良県で行っていただく顕彰行事でございます。国際性のあった奈良の歴史を地域振興あるいは現在のグローバル化社会に生かす取り組みの一環であろうかと思えます。平和で安定した東アジアの発展に貢献するために、創設された国際賞であろうと聞いております。奈良県でこのような国際賞の展開がされることは光栄なことでございます。

今後、奈良県の取り組みが東アジアの恒久平和の実現に向けて一歩でも前進する契機となるよう、東アジア地方政府レベルでの会をはじめとする諸活動をさらに推進していきたいと思っております。

◆二十九番（今井光子） ご答弁ありがとうございました。

平和の問題というのは、やはり、言い続けていかないといけない大事な問題だというふうに思えます。知事の方から、その重要性の認識などいろいろとお聞かせいただきました。奈良県というのは、平和をやはり発信するのに大変大事な地域だというふうに私も思っております。非核平和都市宣言、全部の自治体が行っているというこうした県も珍しいわけでございますし、核拡散防止条約NPTの再検討会議のときにも、知事はじめ全部の市長さんがその核兵器廃絶の賛同署名をしていただいた、これも全国で奈良県だけというようなこともございました。こうしたことで、引き続いて平和を守るために頑張りたいということをお願いいたします。

